


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2022 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	込山 星河	会員番号	0036865	
申請者の所属・職名	慶應義塾大学大学院薬学研究所生化学講座・後期博士課程1年			
出席会議名	The Cell Symposia: The Neuro-Immune Axis			
発表論文タイトル	$\gamma\delta$ T17 cells in Peyer's patches acquire the encephalitogenic phenotype through the activation by commensals and exacerbate EAE			

実施結果:

この度は 2022 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に選出いただき、誠にありがとうございました。

本 Travel Award のご支援のもと、私は 2022 年 9 月 11 日から 13 日までの間に、ポルトガルのリスボンで開催された Cell symposia: The Neuro-Immune Axis に参加させていただきました。本学会は、神経系における免疫の役割、腸管神経系と免疫系との相互作用、腸-脳連関に関する研究を行う研究者が世界中から集い、研究報告や議論を交わす、Cell 誌が主催する国際学会です。私は、腸内細菌による腸管免疫系の活性化を介した自己免疫性脳脊髄炎の増悪メカニズムの解明を目指しています。ここまで得られた研究成果を発表することで、各国の研究者からいただく質問やコメントを更なる研究の発展へと活かしたいと考え、本学会に参加いたしました。

私はポスターセッションにて、“ $\gamma\delta$ T17 cells in Peyer's patches acquire the encephalitogenic phenotype through the activation by commensals and exacerbate EAE” というタイトルで発表させていただきました。『腸管関連リンパ組織の 1 つであるパイエル板が、腸内細菌による $\gamma\delta$ T 細胞の活性化の場として機能し、自己免疫性脳脊髄炎の病態形成に寄与する』という内容は多くの興味を引き、10 名を超える研究者らに訪れていただき、発表や議論をすることができました。本学会の Keynote Speaker でもあった Yasmine Belkaid にも訪れていただき、有意義かつ重要な提案をしていただきました。

また、リスボンには私が将来留学をしたいと考えている研究室があったため、研究室主宰者と連絡を取り、その研究室を訪問させていただく機会も得ることができました。その研究室のチームリーダーである Julie Ribot は、私も着目している $\gamma\delta$ T 細胞に関する著名な研究を行っており、私のポスター発表にも訪れていただき、有意義な議論ができました。さらに、学会終了後には研究室を訪問させていただき、ポスターに収まらなかったデータに関する深い議論や、先方の研究室で行われている研究内容に関する議論をすることができました。この経験は、今後留学先を決める上で欠かせないものとなったと確信しております。

末筆とはなりますが、岸本忠三先生をはじめ、荣誉ある本 Travel Award に選出して下さった選考委員の皆様、ならびに推薦いただきました長谷耕二教授にこの場を借りて御礼を申し上げます。